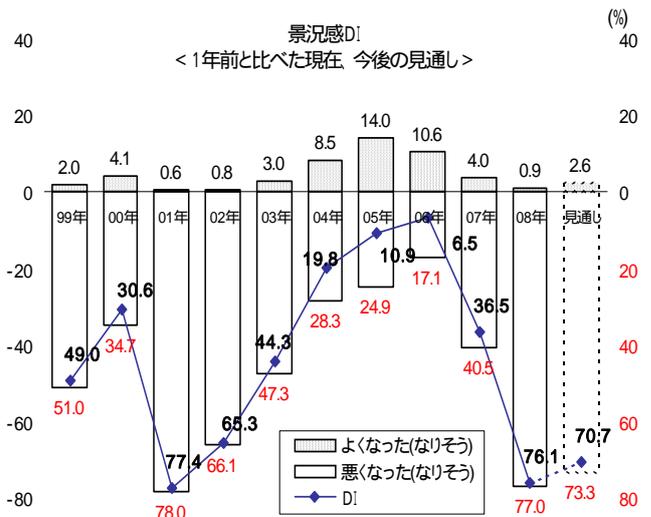


1. 景気・収入・支出・暮らし向きの動向

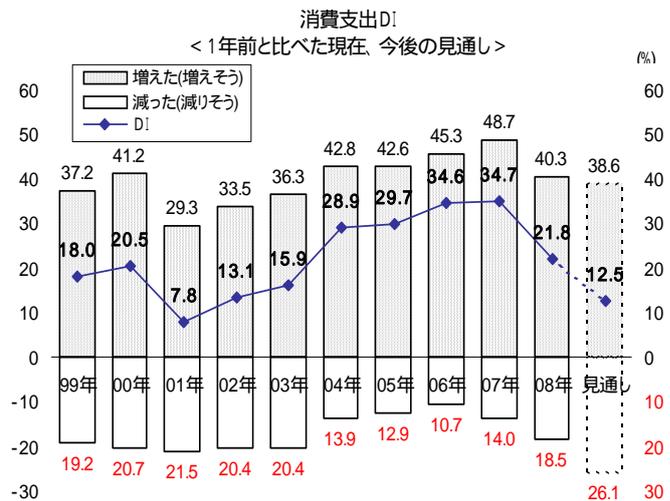
[景況感DI] 前回調査より大幅悪化

- ・景況感DI（1年前に比べ景気が「よくなった」という回答の割合から「悪くなった」という回答の割合を引いた数値）は、前回（07年調査）より 39.6 ポイント低下し、76.1 となった。
- ・これは 01年調査に次ぐマイナス水準である。
- ・今後の見通しは、5.4 ポイント増加し、DI は 70.7 となった。



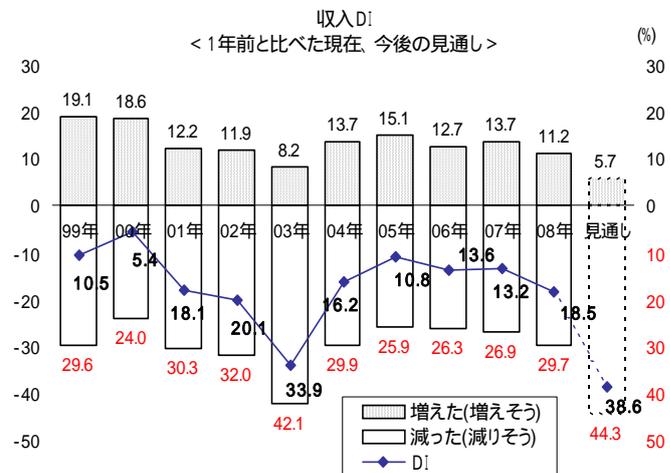
[消費支出DI] 支出抑制傾向強く、大幅低下

- ・消費支出DIは、前回は 12.9 ポイント下回り 21.8 となった。多くの品目が値上がりする中、衣料品や娯楽品等の支出を抑えるなど生活防衛意識が強く働いた結果と思われる。
- ・今後の見通しでは、DIはさらに低下し 12.5 となった。所得の増加が見込めない中、支出をさらに引き締めようとする人が多いようである。



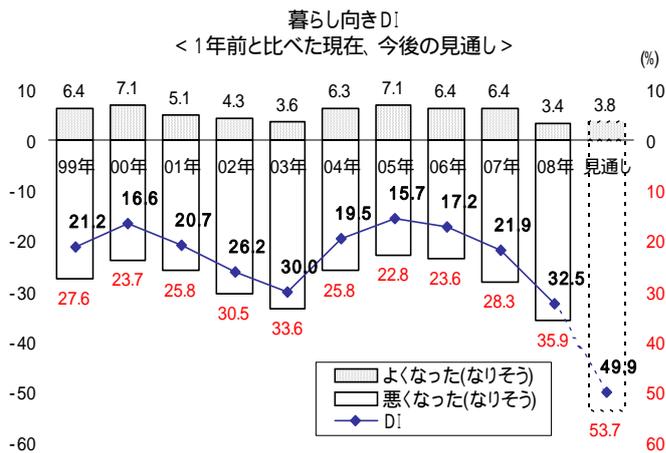
[収入DI] 小幅ながらも悪化に転じる

- ・収入DIは、18.5 と小幅ながらも悪化に転じた。
- ・今後の見通しは 38.6 と、さらなる悪化が予想されている。国内外の需要減少に伴い、企業業績が悪化することが予想されており、所得環境に対する厳しい見方が多い。



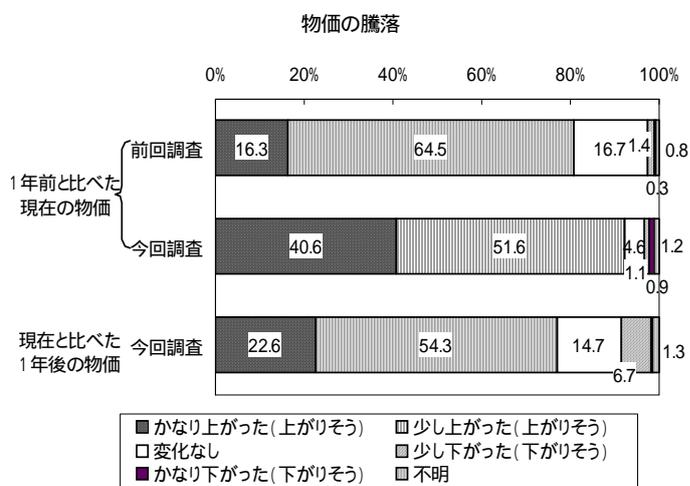
[暮らし向きDI] 景況感に連動し大幅悪化

- 暮らし向きDIは、前回より 10.6 ポイント悪化し 32.5 と、調査開始以来最低の水準となった。
- 今後の見通しはさらに悪化し、 49.9 となった。



[物価] 9割の人が上昇を実感

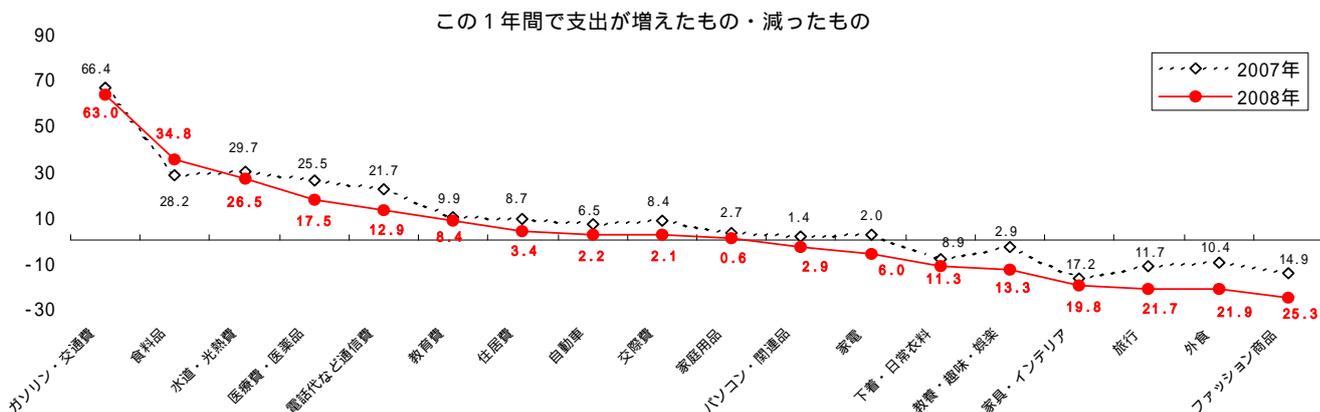
- 1年前と比べ物価が「上がった」と感じている人は 92.2%に上り、特に「かなり上がった」との回答は、前回より 24.3 ポイント上昇し 40.6%となった。
- 全体の 76.9%は、1年後の物価が現在よりさらに上昇すると考えている。



2. 費目別の支出動向

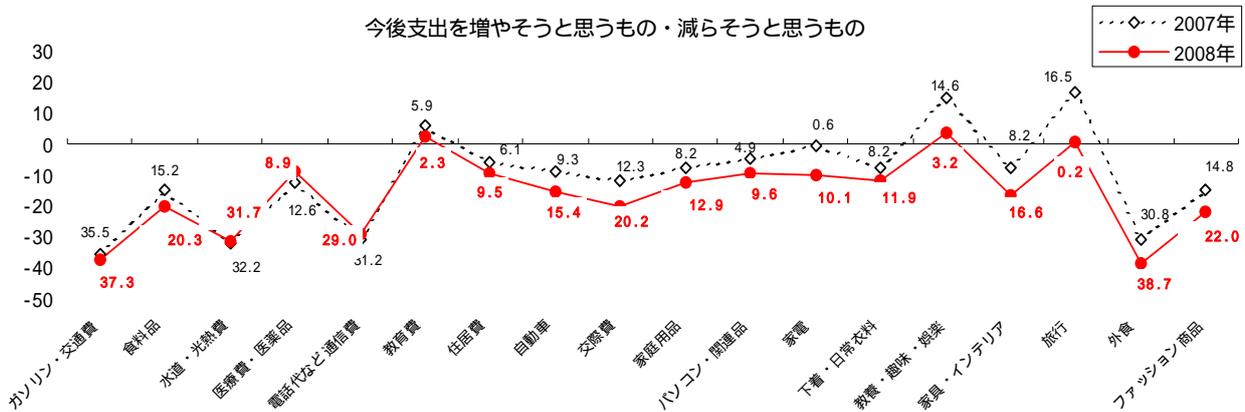
ガソリン代、食料品が増加

- DI値が最も高かった費目は、ガソリン・交通費の 63.0 であった。ただし最近の下落傾向を反映してか、前回より 3.4 ポイント減少している。次いで食料品 (34.8)、水道・光熱費 (26.5) となった。
- DIがマイナスとなった8費目の中でも、旅行、外食、ファッション商品は、前回は 10 ポイント以上下回った。
- 値上がりによって望まざる支出が増える中、選択的消費に関わる費目を切り詰めている様子が見える。



「この1年で支出が増えたもの」の割合から「減ったもの」の割合を引いた値

- ・今後については、旅行、教養・趣味・娯楽、教育費の3費目でDIがプラスとなったが、その値は前回は大きく下回っている。
- ・マイナスとなった15費目のうち、12費目のDIが前回は下回っており、今後もさらに消費支出を抑制しようとする傾向が強まりそうである。

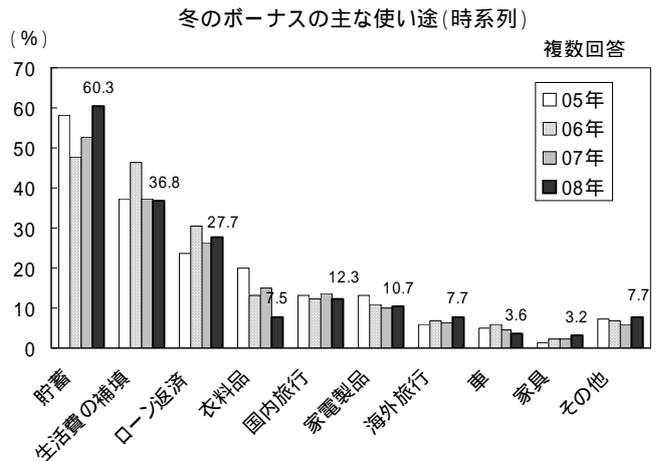


「今後支出を増やそうと思うもの」の割合から「減らそうと思うもの」の割合を引いた値

3. ボーナスの使いみち

貯蓄が増加

- ・冬のボーナスの使いみちは、「貯蓄」が最も多く、前回より増加し60.3%となった。
- ・一方、「生活費の補填」や「ローンの返済」という回答は横ばいであった。



まとめ

今回の調査では各DIが軒並み悪化、昨年から続く物価上昇や最近の金融不安を反映した結果となった。足下を見れば、円高や原材料価格の下落など家計へのプラス要因はあるものの、世界的な景気後退の中で企業収益の悪化が予想され、収入や雇用の面で先行き不透明感は強い。低迷する消費の回復には、今しばらく時間がかかるものと思われる。

(河野 静香)